

格子戸めぐり

伊勢街道の小さな旅

『六軒茶屋まで送りましょう・・・』とは  
お伊勢参りの旅人と、うたかたに親しんだ遊女が  
その別れを惜しみ伊勢音頭の一節として歌ったもの。  
このように川を目の前にしたこの追分けには  
惜別の物語りが数あったことだろう。



### 六軒の追分

伊賀から続く初瀬街道と伊勢街道が合流しているこの追分けには、常夜灯や道標が目立つ。また奈良や伊賀方面から幾日もかけて山越えてきた旅人らは、初めて出会う美しい海と塩田の風景に感動するとともに、新鮮で美味しい魚料理に感激の香鼓を打ったことだろう。

### 忘井 わすれい

「別れゆく都の方の恋しき  
いざ結びみむ忘井の水」  
平安期の齋王群行に随行した  
官女甲斐が、忘井を通過の際、  
都を思い望郷の念やみがたく、  
涙とともに詠んだと言われる歌に  
ちなむ遺跡。当時は一行が喉を潤し  
休息した場所である。



### 神楽寺 しんらくじ

曹洞宗護法山神楽寺は、散策の途中、ひと休みするには格好の場所。また黄檗宗の流れを汲んだ立派な山門は一見の価値あり。



ベンチに腰掛けて心地よい風を楽しんで。

### 米ノ庄神社

元は熊野権現が祀られ、海がすぐそばまで迫っていたというこの神社の境内にはナギノキ、イスノキ、モチノキなど貴重な照葉樹林が今も多く残る。長い参道を散歩しながら森林浴が楽しめるこの神社は、さながら田園の中に浮かぶ緑の島と見えよう。



### 町並ウォッチング

### 妻入りの民家

市場庄と隣接している六軒、松阪地区をはじめ、広域に渡って『平入り』民家が多いのに対し、市場庄の民家はそのほとんどが、おはらい町（伊勢神宮内宮前）と同じ『妻入り』民家で、今も20軒近くが残っている。  
毎年、盆と正月の前になると、まるで風物詩のように町のおちこちで、せつせと格子戸が磨かれる。それは長年、各家の女性の仕事とされて来たが、昨今では夫婦の共同作業となって来たようだ。



### 磯部屋

伊勢街道と初瀬街道が合流する三渡川のともとに位置する『磯部屋』は、魚料理が自慢の旅籠であった。現在、その名残りとして、自宅の玄関先に当時の看板や講札が掛けられており、随時見学することができる。



### 鶴の鬼瓦

珍しい鶴模様の鬼瓦には、商売繁昌の願いが込められている。



### 機関的 (からくりまど)

おかげ参り盛んな頃の娯楽施設『からくり的』があった。絵からは、お祭を思いおこさせるような当時の賑わいが想像できる。



### 鐘燧さん しょうきさん

屋根の上で、睨みをきかせているのが鐘燧さん。悪霊を入れまいと頑張る姿はチャームング。



### 葉乃穂 ランチ&カフェ

明治15年築の「妻入り町家・藤音」を改築し、界隈のお食事ご休憩処として親しまれている「葉乃穂」。懐かしさを残す店内で、地元食材を中心とした手作り料理をゆっくりとお楽しみください。

◆営業時間 ランチ11:30~13:30  
カフェ14:00~17:00

◆定休日 毎週水曜日 第二、四火曜日  
松阪市市場庄町611番地 TEL/FAX 0598-56-6757



### ◆格子戸の会◆

三重県松阪市市場庄町  
◆お問い合わせは  
(中村) でんわ0598-56-2493

◆格子戸の会◆  
松阪市市場庄町



六軒の追分を背にして緩やかなカーブを曲がると、まるでタイムスリップをしたかのような格子戸の町並みに出会う。

屋号の残る「格子戸街道」絵地図



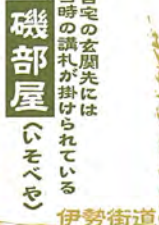
常夜燈



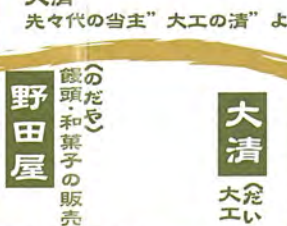
米銀跡  
ひときわ目立つレトロな倉庫  
錆びたトタンモ味のうち。



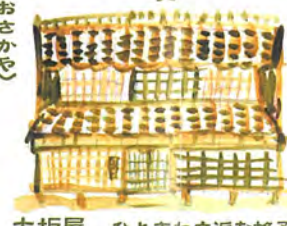
ランチ&カフェ  
菜乃糍 (雑音)  
古民家を改築したお食事処



自宅の玄関先には  
当時の講札が掛けられている  
磯部屋 (いそべや)



「大工の清」より由来。  
大坂屋



ひときわ立派な格子戸  
のある平入りの大きな庄屋さん。

六軒

屋号の札  
その昔に営んでいた商店などの呼び名を  
玄関口に取り付けられたもので、屋号のある  
家は代々その子孫が住んでおり、今でも  
お年寄りの間では屋号で呼び合っている。  
※現在、各商店は営業していません  
(一部を除く)

市場庄